



セカンド・パーティ・オピニオン

SECOND PARTY OPINION

第一生命保険株式会社

DL トランジションローン・フレームワーク

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2024 年 1 月 31 日

Ref. Nr.: PRJN- 654423-2024-AST-JPN-01

目次

報告書サマリー	3
Ⅰ. まえがき	8
Ⅱ. スコープと目的	14
Ⅲ. 第一生命の責任と DNV の責任	16
Ⅳ. DNV 意見の基礎	17
Ⅴ. 評価作業	19
Ⅵ. 観察結果と DNV の意見	20
スケジュール-1 Enabler としてのトランジション・ローン適合性評価プロセス	28
スケジュール-2 Enabler としてのグリーンローン原則（資金使途特定型トランジション・ローン）適格性評価手順	29

改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2024 年 1 月 31 日	初版発行

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Fundraiser to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

報告書サマリー

第一生命保険株式会社(以下、第一生命、又は Enabler^{注1})は、第一生命ホールディングス株式会社(以下、第一生命グループ)傘下の国内大手生命保険会社であり、それぞれの地域や国で、人々の安心で豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献することを目的に、生命保険の提供を中心に展開しています。

第一生命グループは、2021年3月に国内外グループ全体の事業活動を通じて排出する温室効果ガス(以下、GHGという)を2040年度までにネットゼロとすることを目標に掲げ、また、国内中核事業会社である第一生命のサプライチェーンと運用ポートフォリオのGHGを2050年度までにネットゼロとすることを宣言しました。

具体的には、ネットゼロに向け「ネットゼロ移行計画」を2023年8月に策定するなど、脱炭素社会の実現に向けて、GHG多排出企業が長期的なトランジション戦略に則ったGHG排出量削減の取組を行う場合に、Enablerとして資金調達を積極的に支援します。一方で、GHG多排出企業のトランジション戦略の推進を支援することで、第一生命に割り当てられるGHG排出量が一時的に増加し、運用ポートフォリオにネガティブな影響を及ぼす可能性があります。社会全体で長期的にカーボンニュートラルを達成するためには、野心的に資金需要者のトランジション戦略に資金供給することが重要と考え、Enablerとして、国際的な枠組み及び「トランジション・ファイナンスに関する取組方針(2022年9月制定)」に基づき「DLトランジションローン・フレームワーク」(以下、フレームワーク)を新たに策定しました。

フレームワークは、第一生命がEnablerとして下記のファイナンスを実行する際に必要な要素を含む包括的なフレームワークとして構成されています。

- トランジション・ローン

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)は外部レビュー機関として、フレームワークの適格性を評価しました。具体的には、DNVは以下を中心とした枠組み(原則やガイドライン等)を適用・参照し、第一生命が、資金調達者(融資先)の、トランジション・ローン(適格プロジェクト)の対象となるプロジェクトや事業活動がトランジション戦略の実現に資することを適切に評価・判断するための、第一生命の計画や体制についての適格性評価を行いました。

- クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック(CTFH) 国際資本市場協会(ICMA)、2023
- クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針(CTFBG：金融庁、経済産業省、環境省)、2021
- グリーンローン原則 (GLP LMA 他)、2023
- グリーンローンガイドライン(GLGLs) 環境省、2022
- ネットゼロに向けた金融機関の移行計画に関する提言とガイダンス (GFANZ)、2022

上記の枠組みで示される共通要素に対し、第一生命による資金調達者の適格性評価プロセスを評価した結果の概要を次ページに示します。



※経済産業省の資料より抜粋編集

注1 Enabler：本報告書では、「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」(ICMA)の関連質疑^{*1}や、「クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針」(金融庁、経産省、環境省)^{*2}で示される下記下線部のトランジション・ファイナンスの主体(投融資を含む原資調達の主体)をEnablerとして定義します。

“(トランジション)プロジェクトに融資を行う金融機関”^{*1}

“自社の製品・サービスを通じて、他者のトランジション戦略の実現を可能にする取組を計画している主体も対象となる。例えば、金融機関がそのような活動を行う場合、自身の戦略を説明するのだけでなく、資金供給者(*上図のEnablerに相当)は対象となるプロジェクトや活動が資金調達者の戦略にいかん整合するかを説明すべきである。”^{*2}

本報告書では、金融機関が資金供給者(Enabler)として、対象となるトランジションプロジェクトや活動が、資金調達者の適切なトランジション戦略の実現に資するものであることを評価するための計画や体制についての適格性評価を行います。

<Enablerとしての資金調達者(融資先)のCTF適合性評価プロセス評価結果>

DNVは第一生命から提供された資料及び情報から、第一生命がEnablerとして資金調達者(融資先)のCTF適合性評価プロセス(以下、適合性評価プロセス)をフレームワークとして定めており、そのフレームワークが適格であることを確認しました。このフレームワークに基づく適合性評価プロセスは、トランジション・ローンの資金調達者の取組について、第一生命が各種CTFに関するガイドライン等の要素毎に定めた開示・取組レベルに応じた適合状況を判定するものであり、「スコアリングモデル」として適合性を判断するための内部プロセスとして開発され標準文書として整備されています。また、このフレームワークは投資家や市場が求める要件や、専門家の見解等との整合性を確保するために定期的に見直され、常に有効な最新版として機能することが期待できます。

加えて、第一生命が定義するESG投融資手法のネガティブ・スクリーニングに則り、除外クライテリアを設けており以下の分野(特定の兵器製造関連(クラスター弾、生物兵器、化学兵器、対人地雷、核兵器等)/化石燃料による新規の火力発電所関連事業(石炭・石油・ガスを含む)/石炭採掘事業)については、投融資禁止としています。

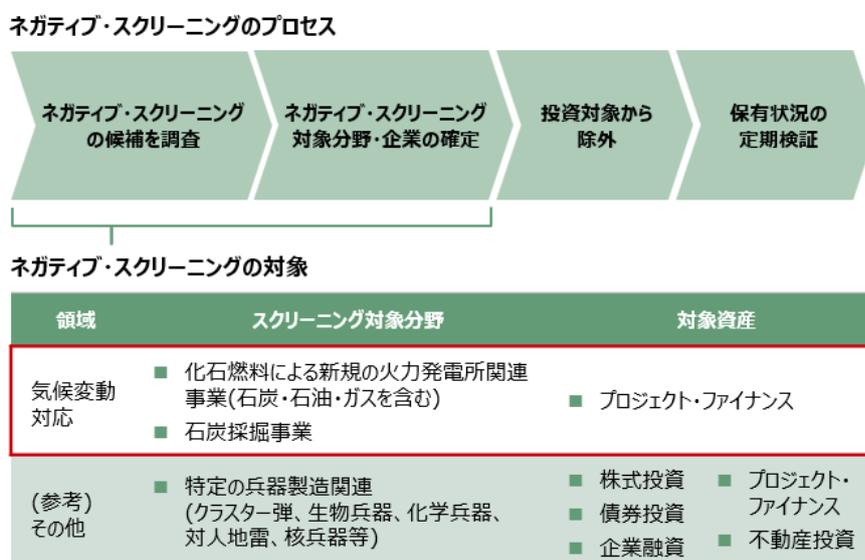


図-1：ネガティブ・スクリーニングに則った投融資禁止対象

以下に示すEnabler CTF-1~CTF-4は、CTFH、CTFBGの共通の4つの要素に対する適合性評価プロセスの概要です。DNVは、第一生命へのアセスメントを通じて、適合性評価プロセス(フレームワーク)がCTFH、CTFBGと整合することを確認しました。

Enabler CTF-1. 資金調達者のクライメート・トランジション戦略とガバナンス：

クライメート・トランジション戦略：第一生命は、フレームワークを通じ、資金調達者のトランジション戦略が、パリ協定の目標に整合し、科学的根拠を有した具体的な計画があることと、またその計画に透明性があり、信頼性・実現性の高い目標を定めていることを確認します。また、第一生命は、資金調達者のトランジション戦略の実行において、GHG削減の主な手段やSDGsへの貢献についても考慮します。

ガバナンス：第一生命は、調達者のトランジション戦略が、どのような組織機関・会議体により管理・実行されるプロセスを有しているかについて確認します。資金調達者が当初計画したトランジション戦略が更新される場合、第一生命及び資金調達者は、変更内容とその理由を利害関係者へ説明します。

Enabler CTF-2. ビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティ(重要度) :

環境面のマテリアリティ : 第一生命は、資金調達者の GHG 削減への取組が、第一生命のスコープ 3 として影響を及ぼすことから、資金調達者のマテリアリティ選定プロセスにおいて、ビジネス特性上環境面の重要となる中核的な事業活動の変革に資することを確認します。

シナリオの考慮 : 第一生命は、資金調達者のトランジション戦略が、科学的根拠を有するどのようなシナリオに基づくかについて確認すると共に、資金使途対象候補となる対象プロジェクトに影響を及ぼす可能性のある将来のシナリオを複数考慮していくことを確認します。

Enabler CTF-3. 科学的根拠のあるクライメート・トランジション戦略(目標と経路を含む) :

科学的根拠のある戦略、目標、経路 : 第一生命は、資金調達者が設定する定量化された目標と経路が、パリ協定の目標実現に必要な科学的根拠のある軌道を参照して設定されていることを確認します。また、資金調達者の GHG 排出量の削減目標が GHG プロトコルをカバーしている事、または事業特性、技術開発や削減の進捗のタイムラインに応じて、その他の適切な指標や目標等により設定されていることを確認します。

Enabler CTF-4. 実施の透明性 :

投資計画 : 第一生命は、資金調達者のトランジション戦略実現のための投資計画全体について確認します。なお、戦略実現のためのタイムラインが長期に渡る場合や、トランジションを取り巻く外部環境や技術革新の状況等、自社以外の要因により投資計画全体の設定が困難な場合には、当該プロジェクトを含む短期的な投資計画について、実務的に可能な範囲にて確認します。また、充当対象となるプロジェクト、または資金調達者全体としての活動を通じた、想定される気候関連等への成果とインパクトが資金調達者によって明確に示されることを確認します。更に、資金調達者のトランジション・ローンへの充当計画や資金調達後の実施状況のモニタリングについて、資金調達後から資金充当完了までの間、管理・報告する適切なプロセスがあることを事前に評価すると共に、融資期間中、少なくとも年に 1 回、トランジションへの取組状況について確認することを定めています。

公正な移行、ネガティブインパクトの緩和、ロックイン回避 : 第一生命は、資金調達者の適格プロジェクトの選定プロセスにおいて、公正な移行、ロックイン回避、ネガティブな影響について適切に特定・考慮・対策がなされている事や図-1 のとおり、除外クライテリアに該当しないことが考慮されること、及び炭素税導入の影響等を確認します。

<資金用途特定型トランジション・ローン 適格性評価結果>

DNVは第一生命から提供された資料及び情報から、以下を確認しました。以下に示す TL-1～TL-4 は、資金用途特定型トランジション・ローン(TL)の管理に必要な4つの要素(GLP、GLGLs 参照)に対する観察結果とDNVの意見です。

TL-1. 調達資金の用途 :

第一生命は、CTF 適格性を有する資金調達者のトランジションを実現するためのトランジション・ローン・ローン(適格プロジェクト)に対する新規及び/又は既存の投資に資金を充当します。なお、既存の投資に充当する場合は、借入日から遡って5年以内に実施した支出に限ることとしています。

また、第一生命は調達資金の用途について、図-1のとおり、除外クライテリアを設けており、除外クライテリアに関連するプロジェクトへは充当しないこととしています。

TL-2. プロジェクトの評価と選定のプロセス :

第一生命は、Enablerとして資金供給するにあたり、Enabler CTF-1～4及びTL-1～4を満たすことを確実にするための詳細な内部プロセスを有しています。この内部プロセスは、大きく5つのSTEPに分類されています。概要は以下の通りです。

STEP1 : 投融資審査_資金調達者/対象プロジェクトの財務評価及び与信判断。

STEP2 : トランジション性評価_資金調達者のトランジション・ローン適合性について Enabler CTF-1～CTF-4に基づき評価。評価は、既に外部評価を取得しており適格性を有し重要な変更がないこと、或いは、予め定められたスコアリングモデルに基づき、資金調達者のトランジション・ローンの開示要素に対する取組の達成状況を数値化・算出し、別途定める適合条件を満たしていることを確認。

STEP3 : プロジェクト適格性_評価対象プロジェクトが資金調達者のトランジション戦略に適合していることを確認。

STEP4 : 投融決定_第一生命として最終的なトランジション・ローン(適格プロジェクト)として決定。

STEP5 : ローン実行_社内システムにより、上記決定に基づいた金額を資金調達者の口座に出金指示。

TL-3. 調達資金の管理 :

第一生命は、資金調達者が第一生命よりトランジション・ローンとして調達した資金を、資金調達者の内部プロセスに基づき管理される手順があることを、融資前に資金調達者からの報告により確認します。例えば、対象となるトランジション・ローン(適格プロジェクト)の合計金額がトランジション・ローン調達資金を下回らないようにシステムや帳票を用いて管理される仕組みがあることを確認します。第一生命は、調達した資金が充当されるまでの間、資金調達者によって未充当資金と等しい額が現金又は現金同等物にて管理されることを確認します。いずれも、少なくとも1年に1回、融資額が全て充当されるまでの間、第一生命によりモニタリングされます。

TL-4. レポーティング :

資金充当状況 : 第一生命は、資金調達者がトランジション・ローンとして調達した資金の全額がトランジション・ローン・トランジション・ローン(適格プロジェクト)に充当されるまで、資金充当状況について第一生命に報告することを資金調達者に求めています。

環境改善効果 : 第一生命は、資金調達者に対して、資金充当が開始されたトランジション・ローン(適格プロジェクト)について、守秘義務や競争上の配慮を行った上で、資金調達者がプロジェクトの概要、進捗、環境改善効果(例 : GHG 排出削減効果)等を適切な指標に基づいて、第一生命に報告することを求めています。

報告 : 第一生命は、統報告書又はウェブサイト等で、トランジション・ローンの取組の状況を年次で報告する予定です。

DNV は、フレームワークをはじめとする第一生命より提供された関連文書・情報に基づく評価により、第一生命が Enabler として、CTFH、CTFBG 及び GLP、GLGLs で要求される基準で示される Enabler の実践的な評価ステップとも整合しており、第一生命のトランジション・ローンが適格性を有することを確認しました。また、第一生命が実施する、資金使途不特定型のリンク型トランジション・ローンについては、あらかじめ外部評価機関の評価を受けたファイナンスに限定することを DNV は確認しました。

I. まえがき

i. 第一生命について

第一生命は、第一生命ホールディングス株式会社(以下、第一生命グループ)傘下の国内大手生命保険会社であり、グループ理念体系の共有により、グループ各社が、それぞれの地域や国で、人々の安心で豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献することを目的に、生命保険の提供を中心に展開しています。

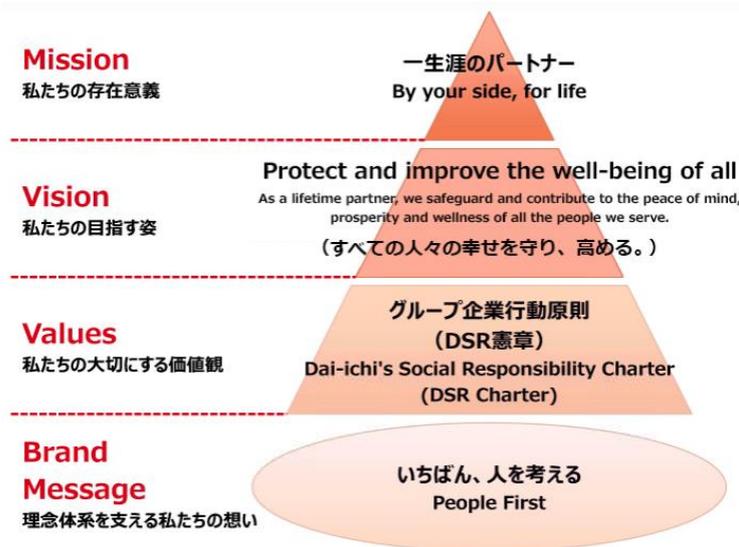


図-2 第一生命グループの理念体系 (Mission・Vision・Values・Brand Message)

ii. 第一生命のサステナビリティへの取組み

第一生命グループは、サステナビリティの推進により、あらゆるステークホルダーと、社会、地球環境すべての「Sustainable well-being」を目指しています。中期経営計画「Re-connect 2023」において、「地球環境・地域・社会に関する重要課題」への取組みと、その担い手である「社員の well-being」への取組みをサステナビリティ取組みとして、事業活動の基盤に位置付けています。また、将来にわたって、すべての人々が世代を超えて安心に満ち、豊かで健康な人生を送れる well-being (幸せ) に貢献し続けられる存在でありたいと願い、事業領域を4つの体験価値(保障、資産形成・承継、健康・医療、つながり・絆)へと広げています。また、「一生涯のパートナー」としての使命を果たし、人々の well-being 実現に資する商品・サービスを提供していくこと、及び責任ある機関投資家として ESG 投資を積極的に推進することで、「SDGs の実現」に貢献・挑戦しています。

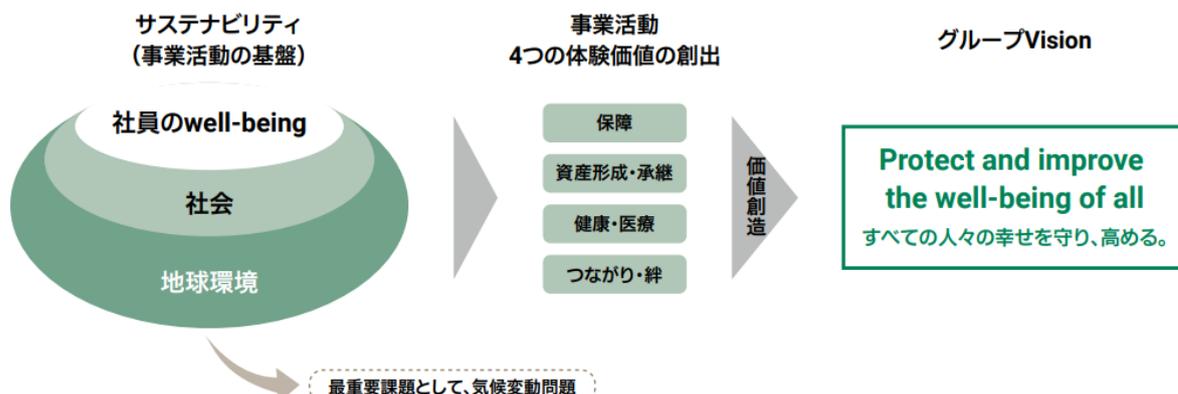


図-3 第一生命グループにおけるサステナビリティの位置づけ



図-4 第一生命グループ グループビジョン

第一生命グループは、持続的社会的実現に向けた取組みを力強く推進するために、「グループサステナビリティ推進委員会」を中心としたサステナビリティ推進体制を構築しています。2023年4月には「Chief Sustainability Officer (CSuO)」を新設し、グループサステナビリティ戦略を推進する職責を担うとともに、グループサステナビリティ推進委員会の委員長を務めています。気候変動対応を含めた各種取組みは、委員会での議論を経て定期的に経営会議・取締役会に報告され、取締役会の監督を受けています。また、役員報酬の業績連動型株式報酬の一部に、CO2排出量削減の進捗に関する指標を含むサステナビリティ基準を組み入れています。

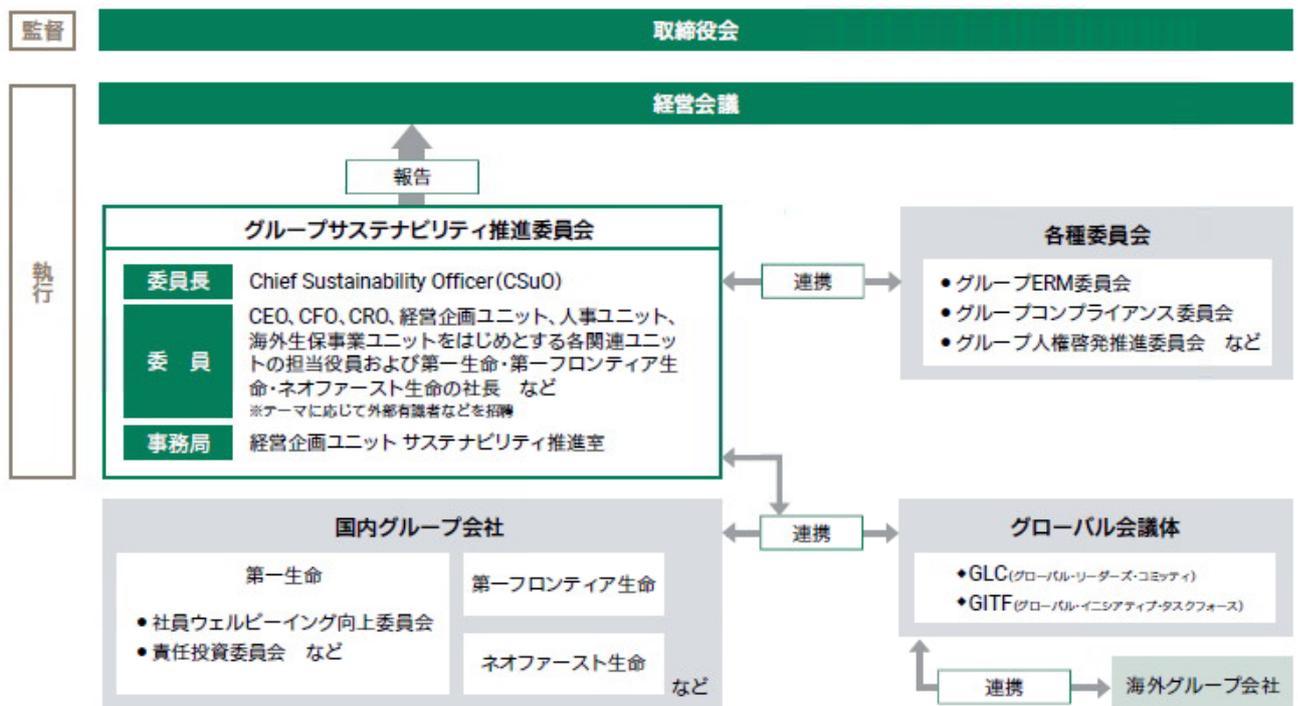


図-5 サステナビリティ推進体制

iii. 第一生命の環境への取組み

第一生命グループは、社会の一員として地球環境保護および循環型社会の構築を企業の社会的な責任と捉え、グループ一丸となって環境保護・保全と環境負荷低減を目指す姿としています。この実現のために「グループ環境取組方針(制定：2016年10月/改正：2022年4月)」を定めており、所定の手続きを経て制定・改正を実施し、その内容は取締役会に報告されています。

グループの国内中核子会社である第一生命の生命保険事業は、現在と将来の架け橋として将来世代を守る大切な役割を持っています。第一生命は「一生涯のパートナー」として現世代と将来世代をコネクトするという社会的役割をしっかりと認識したうえで、預かった保険料を責任ある機関投資家として運用することを通じて、持続可能でレジリエントな環境・社会の実現に貢献しています。また、日本全国の契約者から預かった約34兆円(第一生命ネットゼロ移行計画)の資金を長期にわたり幅広い資産で運用しており、中長期・安定的な運用収益を確保しつつ、地球環境、地域・社会の重要課題の解決に資する責任投資に取り組んでいます。

iv. 第一生命の気候変動への取組み

第一生命グループは、社会の持続性確保を事業運営の根幹と位置付け、とりわけ気候変動への対応は世界的な重要課題の一つとし、人々の生活基盤である地球環境のサステナビリティ確保に向けて、事業会社として、そして機関投資家として、脱炭素社会実現へ貢献していくための目標を掲げ、事業を通じた気候変動への取組みを継続的に強化していきます。

第一生命グループでは、スコープ1+2で2040年度ネットゼロを目標に掲げ、中間目標として2025年度の50%削減(対2019年度)を計画しています。スコープ3(カテゴリ15*)は2050年ネットゼロに向けて、2025年25%・2030年50%削減(対2020年)を計画しています。また、スコープ3(カテゴリ15以外)は2050年度ネットゼロに向けて、2030年度30%削減(対2019年度)を計画しています。

*スコープ3(カテゴリ15)：株式・債券投資、ローンなどの投融資先のGHG排出量の算定基準

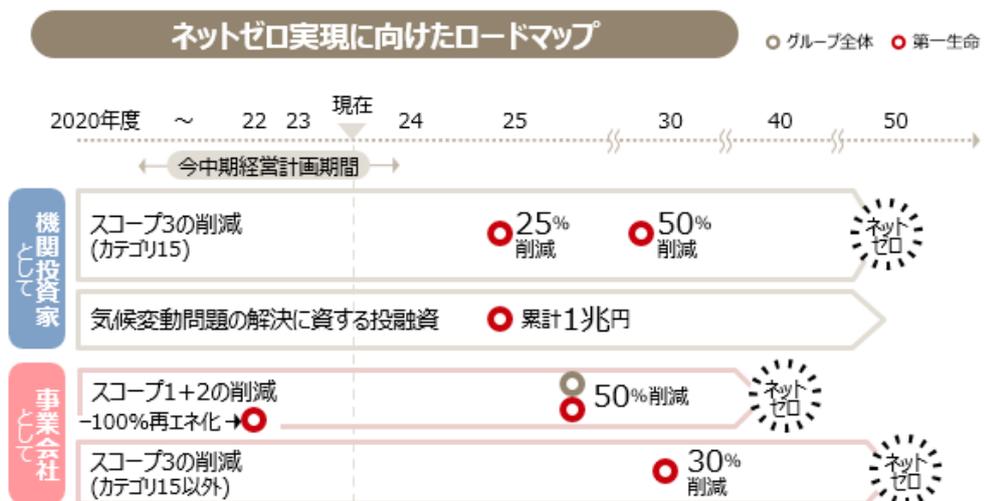


図-6 ネットゼロ実現に向けたロードマップ

DNV

第一生命グループは金融機関として、実体経済のネットゼロ移行促進に向けた気候変動対応をより統合的に推進するため、2023年8月に「ネットゼロ移行計画」を具体化し開示しました。本計画は、GFANZにおける移行計画のガイダンスなどを参考としています。本計画は、国内中核子会社の第一生命を主体に策定しており、CSuOが統括、経営企画ユニットが管理し、第一生命の各担当部署が各取組みを推進します。また、グループサステナビリティ推進委員会にて進捗管理や議論を行い、その内容を経営会議へ報告のうえ、取締役会による監督を受けます。本計画には、ネットゼロ実現に向けた優先課題を明記しています。また、計画内容は今後継続的にアップデートされていく予定です。

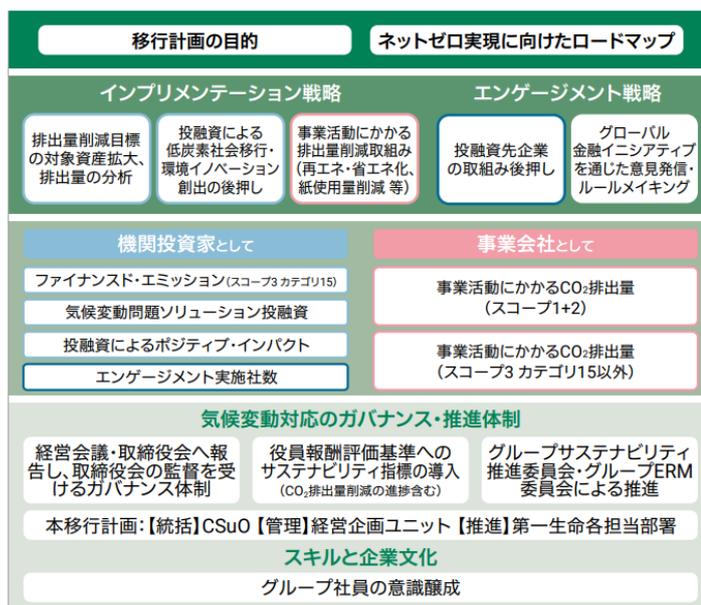


図-7 ネットゼロ移行計画



図-8 ガバナンス

v. 第一生命のトランジションへの取組み

第一生命は、トランジション・ファイナンスが、脱炭素社会の実現に向けて自らのビジネスモデル（保有する設備・技術等を含む）の変革を志す企業が、長期的な移行戦略に則った GHG 排出量削減の取組を行う場合に、そのための資金調達を積極的に支援することを通じて、2050 年に向けた同社の運用ポートフォリオの GHG 排出量のネットゼロを達成するとともに、脱炭素社会の実現に貢献すると考え、「責任投資の基本方針（制定 2014 年 7 月/改正 2023 年 4 月）」に基づき、「トランジション・ファイナンスに関する取組方針(2022 年 9 月制定)」を定めています。

- ① 社会全体の長期的なカーボンニュートラルの実現を優先した投資行動を選択します
- ② 投資判断に際しては、トランジション・ファイナンスに関する国内外の主要な指針へ準拠していることに加え、運用収益の確保の観点とともに、企業のトランジション戦略の妥当性・実現可能性を独自に精査します
- ③ 企業のトランジション戦略を精査する際に用いる判断基準については、トランジションを取り巻く外部環境や技術革新の状況等を踏まえて、継続的に見直しを行います
- ④ トランジション・ファイナンスの具体的検討に際して得た知見をベースに、エンゲージメントを通じて、企業のトランジション戦略の改善や取組みの実効性向上を促します

図-9 トランジション・ファイナンスに関する取組方針



vi. トランジションローン・フレームワークについて

第一生命は、資金調達者が事業を通じて環境に貢献できるよう Enabler としてトランジション・ローンを推進するため、国際的な枠組み及び「トランジション・ファイナンスに関する取組方針(2022年9月制定)」に基づきフレームワークに相当する文書として「DL トランジションローン・フレームワーク」(以下、フレームワーク)を確立しています。

第一生命はフレームワークの導入により、「トランジション・ファイナンスに関する取組方針(2022年9月制定)」に定める4つの方針(図-9 参照)に資することを企図しています。

フレームワークは、第一生命が Enabler としてトランジション・ローンを実行する際に必要な要素を含む包括的な文書として構成されています。

このフレームワークが具体的に参照・適用した枠組みについては後述 II 項に示す「適用又は参照される基準」に記載されています。

資金調達者名称 : 第一生命保険株式会社

フレームワーク名 : DL トランジションローン・フレームワーク

外部レビュー機関名 : DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

報告書作成日 : 2024年1月31日



II. スコープと目的

第一生命は DNV にフレームワークの適格性評価を委託しています。DNV におけるフレームワーク評価の目的は、第一生命が、Enabler として資金調達者に対して実施する CTFH、CTFBG への適合性評価プロセスの妥当性、また、個別ファイナンスの実行・管理に必要な GLP、GLGLs 及び他に関連する基準もしくはガイドライン(下表参照)に合致していることを確認するための評価を実施し、このフレームワークの適格性についてセカンド・パーティ・オピニオンを提供することです。

DNV は独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンの提供に際し、第一生命とは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、この報告書では、個別のトランジション・ローンの財務的なパフォーマンス、いかなる投融資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

(1) レビューのスコープ

レビューは以下の項目について評価し、GLP、GLGLs の主要な 4 要素の主旨との整合性について確認されました

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

* レビューのスコープは資金用途特定型のトランジション・ローンに対する評価部分として適用する。

* Enabler として資金調達者に対する CTFH、CTFBG への適合性評価プロセスの妥当性についてもレビューのスコープに含める。

(2) レビュー提供者の役割

- | | |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンド・パーティ・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

(3)適用又は参照される基準

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル ^{*3*4}
1.	クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック(CTFH) ^{*1}	国際資本市場協会(ICMA)、2023	適用
2.	クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針(CTFBG) ^{*1}	金融庁、経済産業省、環境省、2021	適用
3.	グリーンローン原則(GLP) ^{*2}	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)他、2023	適用
4.	グリーンローンガイドライン(GLGLs) ^{*2}	環境省、2022	適用
5.	金融機関のネットゼロへのトランジションファイナンスに関する提言及びガイダンス (Financial Institution Net-zero Transition Plans – Fundamentals, Recommendations, and Guidance)	GFANZ (Glasgow Financial Alliance for Net Zero)、2022	参照

*1 クライメート・トランジション(移行)は、主に発行体(資金調達者)における気候変動関連のコミットメントと実践に関する信頼性(credibility)に着目した概念である。(CTFH、CTFBGより引用)

*2 トランジションの4要素を満たし、資金用途を特定した債券/ローンとして実行する場合に満たすべき4つの核となる要素(調達資金の用途、プロジェクトの評価と選定プロセス、調達資金の管理、レポート等)への適合性を確認するもの。(CTFBGより引用、編集)

*3 参照：第一生命がEnablerとして資金調達者のトランジションファイナンスへの取組を評価する際に必要な各原則やガイドラインの要素の適用可能な一部の要求事項に対して適切な適合性評価プロセスを有しているか評価

*4 適用：第一生命がEnablerとしてトランジションファイナンスを実行する際に必要な各原則やガイドラインの要素全てに対して適合性を有する又は適合性を判断するための適合性評価プロセスを有していることを評価

Ⅲ. 第一生命の責任と DNV の責任

第一生命は、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについて第一生命及びローン利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々は、第一生命から提供された情報及び事実に依拠しています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産や組織のいかなる側面に対しても責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、第一生命の関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

IV. DNV 意見の基礎

DNV は、第一生命にとってより柔軟な Enabler としてのトランジション・ローン適格性評価手順（以下、「手順」）を適用するために、CTFH、CTFBG、GLP、GLGLs の要求事項を考慮した手順を作成しました。スケジュール-2 を参照してください。この手順は、第一生命が Enabler として実施する CTFH、CTFBG、GLP、GLGLs に基づく資金用途特定型のトランジション・ローンに適用可能です。

DNV はこの手順に基づく評価により、独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンを提供します。

DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的なクライメート・トランジション・ファイナンスの原則は、以下の通りです。

「クライメート・トランジション・ファイナンスが透明性と信頼性を持って実行されるために必要な投資の機会を提供する」

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのトランジション・ローンに対する基準は、以下（1）及び（2）のそれぞれ 4 つの共通要素（開示要素）にグループ分けされます。また、DNV は、第一生命が Enabler として資金調達者のトランジション・ローンへの取組を評価する際に本（1）及び（2）の要素について、適切な適合性評価プロセスを有しているかをレビューします。

(1) Enabler としての資金調達者のトランジション・ローン適合性評価 (CTFH 及び CTFBG の 4 つの共通要素)

要素1. 資金調達者のクライメート・トランジション戦略とガバナンス

資金調達の目的は、資金調達者の気候変動戦略の実現を可能にすることが示されるべきです。

要素2. ビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティ(重要度)

計画されたクライメート移行経路は資金調達者のビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティに関連付けられるべきです。

要素3. 科学的根拠のあるクライメート・トランジション戦略(目標と経路を含む)

資金調達者のクライメート・トランジション戦略は科学的根拠を参照すべきです。

要素4. 実施の透明性

資金調達者のクライメート・トランジション戦略達成のための資金調達を目的とした資金調達方法に関連する市場関係者とのコミュニケーションでは、基礎となる投資計画(投資プログラム)の透明性を提供すべきです。

(2) 資金用途特定型のトランジション・ローンとして適合性評価 (GLP、GLGLsの4つの共通要素)

要素1. 調達資金の用途

調達資金の用途の基準は、資金用途を特定したトランジション・ローンの Enabler 及び/又は資金調達者を通じトランジション・ローンにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです。

要素2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

プロジェクトの評価及び選定の基準は、トランジション・ローンの Enabler 及び/又は資金調達者が、トランジション・ローンによる調達資金を用途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。

要素3. 調達資金の管理

調達資金の管理の基準は、トランジション・ローンが Enabler 及び/又は資金調達者によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならない、という要求事項によって定められています。

要素4. レポーティング

レポーティングの基準は、Enabler はローンの貸し手に対して、又は、資金調達者は Enabler に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

V. 評価作業

DNV の評価作業は、Enabler によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

i. トランジション・ローン実行前アセスメント

- この評価に資する上述及び本評価のスケジュール-2 に記載されている、Enabler によるトランジション・ローンへの適用を目的とした Enabler 特有の評価手順の作成。
- このトランジション・ローンに関して Enabler より提供された根拠文書の評価及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照。
- Enabler との協議及び関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。
- 必要な場合、Enabler が実施する資金調達者のトランジション・ローン評価結果に対する適合性評価書の作成

ii. トランジション・ローン実行後アセスメント（*この報告書には含まれません）

- Enabler へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- 現地調査および検査（必要な場合）
- 実行後の観察結果の文書作成

VI. 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

DNV は、第一生命が Enabler として資金調達者のトランジション・ローン（資金用途特定型）への取組みを評価する際に下記の要素について、適切な適合性評価プロセスを有しているかをレビューしました。なお、第一生命が実施する、資金用途不特定型のリンク型トランジション・ローンについては、あらかじめ外部評価機関の評価を受けたファイナンスに限定することを DNV は確認しました。

この適合性評価プロセスは、トランジション・ローンの資金調達者の取組について、第一生命が各種 CTF に関するガイドライン等の要素毎に定めた開示・取組レベルに応じた適合状況を判定するものであり、「スコアリングモデル」として適合性を判断するための内部プロセスとして開発され標準文書として整備されています。また、このフレームワークは投資家や市場が求める要件や、専門家の見解等との整合性を確保するために定期的に見直され、常に有効な最新版として機能することが期待できます。

以下に示す Enabler CTF-1～CTF-4 は、CTFH、CTFBG の共通の 4 つの要素に対する適合性評価プロセスの概要です。

DNV は、第一生命へのアセスメントを通じて、適合性評価プロセスが CTFH、CTFBG と整合することを確認しました。

CTF 及び資金用途特定型トランジション・ローンに対する適合性評価プロセスの概要は、VI(2)の TL-2 で説明されています。

(1) CTFH、CTFBG の共通の 4 つの要素(開示要素)に対する Enabler としての適合性評価プロセスの妥当性と DNV の意見

Enabler CTF-1. 資金調達者のクライメート・トランジション戦略とガバナンス：

- **クライメート・トランジション戦略：**第一生命は、フレームワークを通じ、資金調達者のトランジション戦略が、パリ協定の目標に整合し、科学的根拠を有した具体的な計画があることと、またその計画に透明性があり、信頼性・実現性の高い目標を定めていることを確認します。また、第一生命は、資金調達者のトランジション戦略の実行において、GHG 削減の主な手段や気候変動以外の環境・社会への影響や SDGs への貢献についても考慮します。
- **ガバナンス：**第一生命は、調達者のトランジション戦略が、どのような組織機関・会議体により管理・実行されるプロセスを有しているかについて確認します。資金調達者が当初計画したトランジション戦略が外部・内部の要因を問わず更新される場合、第一生命及び資金調達者は、変更内容とその理由を利害関係者へ説明します。

Enabler CTF-2. ビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティ(重要度)：

- **環境面のマテリアリティ：**第一生命は、資金調達者の GHG 削減への取組が、第一生命のスコープ 3 として影響を及ぼすことから、資金調達者のマテリアリティ選定プロセス及び現在及び将来において、ビジネス特性上環境面の重要となる中核的な事業活動の変革に資することを確認します。
- **シナリオの考慮：**第一生命は、資金調達者のトランジション戦略が、科学的根拠を有するどのようなシナリオに基づくかについて確認すると共に、資金用途対象候補となる対象プロジェクトに影響を及ぼす可能性のある将来のシナリオを複数考慮していくことを確認します。

Enabler CTF-3. 科学的根拠のあるクライメート・トランジション戦略(目標と経路を含む) :

- **科学的根拠のある戦略、目標、経路 :** 第一生命は、資金調達者が設定する絶対値又は相対値として定量化された目標と経路が、パリ協定の目標実現に必要な科学的根拠のある軌道を参照して設定されていることを確認します。また、資金調達者の GHG 排出量の削減目標が GHG プロトコルをカバーしている事、または事業特性、技術開発や削減の進捗のタイムラインに応じて、その他の適切な指標や目標等により設定されていることを確認します。

Enabler CTF-4. 実施の透明性 :

- **投資計画 :** 第一生命は、資金調達者のトランジション戦略実現のための投資計画全体について確認します。なお、戦略実現のためのタイムラインが長期に渡る場合や、トランジションを取り巻く外部環境や技術革新の状況等、自社以外の要因により投資計画全体の設定が困難な場合には、当該プロジェクトを含む短期的な投資計画について、実務的に可能な範囲にて確認します。また、充当対象となるプロジェクト、または資金調達者全体としての活動を通じた、想定される気候関連等への成果とインパクトが資金調達者によって明確に示されること(直接的/間接的、定量/定性を問わない)を確認します。更に、資金調達者のトランジション・ローンへの充当計画や資金調達後の実施状況(資金充当状況や GHG 削減効果等)のモニタリングについて、資金調達後から資金充当完了までの間、管理・報告する適切なプロセスがあることを事前に評価すると共に、融資期間中、少なくとも年に 1 回、トランジションへの取組状況について確認することを定めています。

公正な移行、ネガティブインパクトの緩和、ロックイン回避 : 第一生命は、資金調達者の適格プロジェクトの選定プロセスにおいて、公正な移行、ロックイン回避、ネガティブな影響について適切に特定・考慮・対策がなされている事や図-1 のとおり、除外クライテリアに該当しないことが考慮されること及び炭素税導入の影響等を確認します。

(2) 資金使途特定型トランジション・ローン(TL)の管理に必要な 4 つの要素(GLP、GLGLs 参照) に対する観察結果と DNV の意見

TL-1. 調達資金の使途 :

- 第一生命は、CTF 適格性を有する資金調達者のトランジションを実現するためのトランジション・ローン(適格プロジェクト)に対する新規及び/又は既存の投資に資金を充当します。なお、既存の投資に充当する場合は、借入日から遡って 5 年以内に実施した支出に限ることとしています。
- また、第一生命は調達資金の使途について、図-1 のとおり、除外クライテリアを設けており、除外クライテリアに関連するプロジェクトへは充当しないこととしています。

TL-2. プロジェクトの評価と選定のプロセス :

- 第一生命は、Enabler として資金供給するにあたり、Enabler CTF-1~4 及び TL-1~4 を満たすことを確実にするための詳細な内部プロセスを有しています。この内部プロセスは、大きく 5 つの STEP に分類されています。概要は以下の通りです。
- 5 つの STEP は、各 STEP 毎に第一生命のファイナンス投融資部、総合審査部及び責任投資推進部が関与することが定められており、適切な判断・評価が行われることを確実にしています。

STEP1 : 投融資審査_資金調達者/対象プロジェクトの財務評価及び与信判断。

STEP2 : トランジション性評価_資金調達者のトランジション・ローン適合性について Enabler CTF-1~CTF-4 に基づき評価。評価は、既に外部評価を取得しており適合性を有しており重要な変更がないこと、或いは、予め定められたスコアリングモデルに基づき、資金調達者のトランジション・ローンの開示要素に対する取組の達成状況を数値化・算出し、別途定める適合条件を満たしていることを確認。

STEP3 : プロジェクト適合性_評価対象プロジェクトが資金調達者のトランジション戦略に適合していることを確認。

STEP4 : 投融資決定_第一生命として最終的なトランジション・ローン(適格プロジェクト)として決定。

STEP5 : ローン実行_社内システムにより、上記決定に基づいた金額を顧客口座に出金指示。

評価及び選定 *以下適宜グリーンをトランジション、資金調達者を Enabler として読み替える場合があります。

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金調達者の環境貢献目標の達成に合致していること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーン・ファイナンスの調達資金の用途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| <input checked="" type="checkbox"/> 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること(参照可能な基準の存在するグリーンプロジェクト) | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) : |

責任に関する情報及び説明責任

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準 | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内部での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載) : | |

参考表 第一生命 : プロジェクトの評価及び選定プロセス (フレームワークより引用)

適合性評価の手順(概要)	
Step1 投融資審査	適格プロジェクトの選定について、ファイナンス投融資部より財務的評価等を実施のうえ、総合審査部における通常の与信判断プロセスを経て、プロジェクトの金額等に応じてファイナンス金額を定め、固有責任権限の規定に基づき承認者が取り組み可否を決定。
Step2 トランジション性評価	借入人のトランジション性(トランジション・ファイナンスの4 要素)についてファイナンス投融資部が1次評価、責任投資推進部が2次評価を行う(適宜総合審査部に相談する)。その手法として、借入人が外部評価機関より適合性評価を取得している場合はトランジションファイナンス適合性チェックシートを用いてチェックを行い、当社の適格基準に満たしているかチェックを行う。外部評価機関より適合性評価を取得していない場合には、スコアリングモデルで適合基準を満たすことを要件とする。
Step3 プロジェクト適合性評価	評価対象プロジェクトの適合性につき、ファイナンス投融資が1次評価、責任投資推進部が2次評価を行い(適宜総合審査部に相談する)、個別プロジェクトがトランジション・ローンの対象として適格であることを、責任投資推進部において最終評価。



Step4 投融資決定	ファイナンス投融資部が、各 Step を経て入手する文書及び情報が確認されたものについて、適格プロジェクトとして最終的に投融資の決定を行う。
Step5 ローン実行	ファイナンス投融資部から社内システムにより、上記決定に基づいた金額を借入人指定の口座に出金指示を行う。

TL-3. 調達資金の管理：

- 第一生命は、資金調達者が第一生命よりトランジション・ローンとして調達した資金を、資金調達者の内部プロセスに基づく充当計画、追跡管理方法等により管理する手順があることを、融資前に資金調達者からの報告(文書提出又はヒアリング)により確認します。
- 例えば、対象となるトランジション・ローンの合計金額がトランジション・ローン調達資金を下回らないようにシステムや帳票を用いて管理される仕組みがあることを確認します（「充当済金額+現預金」≥「融資額」（極度契約の場合は引出済額））。第一生命は、調達した資金が充当されるまでの間、未充当資金と等しい額が現金又は現金同等物にて管理されることを確認します。
- いずれも、少なくとも1年に1回、融資額が全て充当されるまでの間、第一生命によりモニタリングされます。

調達資金の追跡管理：*以下適宜グリーンをトランジション、資金調達者を Enabler と読み替える場合があります。

- グリーン・ファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、資金調達者により体系的に区別若しくは追跡管理される
- 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- その他(具体的に記載):未充当資金は現金又は現金同等物にて管理される。調達資金は Enabler または資金調達者の両方で同様に管理される。

追加的な開示情報：

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 新規投資のみに充当 | <input checked="" type="checkbox"/> 既存及び新規投資の両方に充当 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別(プロジェクト)の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載)： |

TL-4. レポーティング：

- **資金充当状況：**第一生命は、トランジション・ローンの調達資金の全額がトランジション・ローンに充当されるまで、資金充当状況について資金調達者が第一生命に報告することを資金調達者に求めています。この中には、充当金額、未充当金額の残高、リファイナンスが行われる場合は、リファイナンス額の残高が含まれます
- **環境改善効果：**第一生命は、資金調達者に対して、資金充当が開始されたトランジション・ローンについて、プロジェクトの概要、進捗、環境改善効果(例：GHG 排出削減効果)等を適切な指標に基づいて定量的又は定性的に報告することを求めています。具体的な報告内容については、個別ファイナンスごとに資金調達者と協議の上定められる予定です。
- **報告：**第一生命は、統報告書又はウェブサイト等で、トランジション・ローンの取組の状況を年次で報告する予定です。

<資金充当状況>

- 充当額
- 未充当額の残高
- 充当額のうちリファイナンスとして充当された残高又は割合

<環境改善効果> 例

- プロジェクト概要、進捗状況等
- 年間 GHG 排出削減量(t-CO₂/年等)

資金充当状況に関する報告事項:

*以下適宜グリーンをトランジション、資金調達者を Enabler として読み替える場合があります。

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 関連する個々のローン単位 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載):ローンに応じて決定 |

報告される情報:

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金充当額 | <input type="checkbox"/> 資金総額のうちグリーン・ファイナンスにより充当された額割合 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): | |

頻度:

- | | |
|--|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年 | <input type="checkbox"/> 半年ごと |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): | |

インパクト・レポーティング(環境改善効果):

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 関連する個々のローン単位 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載):ローンに応じて決定 |

頻度:

- | | |
|--|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年 | <input type="checkbox"/> 半年ごと |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載): | |

報告される情報(予測される効果、若しくは実行後):

- | | |
|--|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> GHG 排出量/削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量 |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他の ESG 評価項目(具体的に記載): | プロジェクト概要、進捗状況等、ローンに応じて決定 |

開示方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に記載(統合報告書) | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートに記載 |
| <input type="checkbox"/> 臨時報告書に記載 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載): 報告は、資金調達者(融資先)から第一生命へのみ報告される場合や、資金調達者の web サイトや統合報告書を通じて一般開示される場合があります。 |
| <input type="checkbox"/> レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載): | |

(3) 外部レビュー

第一生命は、TL-2.で示すフレームワークの決定プロセスの結果(適合性評価結果)に基づき実行する個別のトランジション・ローンが、適切なトランジション・ローンであるという信頼性・透明性を確保するため、外部レビューを通じ、第一生命の適合性評価が適切に完了していることを確認(外部評価機関から、適合に関する書面を取得)する予定です。

評価結果

DNV は、フレームワークをはじめとする第一生命より提供された関連文書・情報に基づく評価により、第一生命が Enabler としてトランジション・ローン（資金用途特定型）を実行するために確立したフレームワークが、CTFH、CTFBG 及び GLP、GLGLs で要求される基準で示される Enabler の実践的なステップと整合し、また、第一生命が資金調達者の調達資金管理やレポーティングを適切に実施することを確認するプロセスを有していること及び資金用途不特定型のリンク型トランジション・ローンについては、あらかじめ外部評価機関の評価を受けたファイナンスに限定することを確認しました。また、観察結果から、第一生命は機関投資家として多額の預かり資金を長期にわたり資金供給する特性を持ち、GHG 多排出企業の長期的な資金需要に応える形で更なるトランジションファイナンスの推進及び透明性と信頼性を高めていくことが期待されます。また、国内外の各種サステナビリティ関連イニシアティブへの参画は、フレームワークのガバナンス強化に寄与すると考えます。

以上から、第一生命が Enabler として実施するトランジション・ローンが、「クライメート・トランジション・ローンが透明性と信頼性を持って実行されるために必要な投資の機会を提供する」というトランジション・ローンの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2024 年 1 月 31 日



鳥海 淳

テクニカルレビューアー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



前田 直樹

代表取締役/SCPA シニアヴァイスプレジデント

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



塚崎 旭

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



溝口 浩幸

アセッサー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Fundraiser and the Second-Party Opinion Providers, DNV : The management of Fundraiser has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Fundraiser management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Fundraiser. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Fundraiser's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

スケジュール-1 第一生命 Enabler としてのトランジション・ローン適合性評価プロセス (フレームワークより引用)

下表は第一生命が Enabler としてトランジション・ローンを実行するために確立したフレームワークにおける資金調達者のトランジション適合性を評価するための Step(適合性評価プロセス)です。ここでは適合性評価プロセスの概要を示していますが、DNV は、アセスメントを通じて、各 Step において、より詳細な実務上の手順(判断フロー等)が定められていること、また、Step2 及び 3 においてはスコアリングモデルの詳細な手順及びスコアリングモデルによる適合基準(合否判定基準)が明確に定められていることを確認しています。

また、DNV は、トランジション・ファイナンスの適合性評価プロセスが、関連する枠組みである CTFH、CTFBG 及び GLP、GLGLs で要求される基準で示される Enabler の実践的な評価ステップを満たしており、適格性があることを確認しました。

参考表 第一生命：プロジェクトの評価及び選定プロセス (フレームワークより引用)

適合性評価の手順(概要)	
Step1 投融資審査	適格プロジェクトの選定について、ファイナンス投融資部より財務的評価等を実施のうえ、総合審査部における通常の与信判断プロセスを経て、プロジェクトの金額等に応じてファイナンス金額を定め、固有責任権限の規定に基づき承認者が取り組み可否を決定。
Step2 トランジション性評価	借入人のトランジション性(トランジション・ファイナンスの4 要素)についてファイナンス投融資部が1次評価、責任投資推進部が2次評価を行う(適宜総合審査部に相談する)。その手法として、借入人が外部評価機関より適合性評価を取得している場合はトランジションファイナンス適格性チェックシートを用いてチェックを行い、当社の適格基準に満たしているかチェックを行う。外部評価機関より適合性評価を取得していない場合には、スコアリングモデルで適合基準を満たすことを要件とする。
Step3 プロジェクト適格性評価	評価対象プロジェクトの適格性につき、ファイナンス投融資部が1次評価、責任投資推進部が2次評価を行い(適宜総合審査部に相談する)、個別プロジェクトがトランジション・ローンの対象として適格であることを、責任投資推進部において最終評価。
Step4 投融資決定	ファイナンス投融資部が、各 Step を経て入手する文書及び情報が確認されたものについて、適格プロジェクトとして最終的に投融資の決定を行う。
Step5 ローン実行	ファイナンス投融資部から社内システムにより、上記決定に基づいた金額を借入人指定の口座に出金指示を行う。

スケジュール-2 Enablerとしてのグリーンローン原則（資金用途特定型トランジション・ローン）適格性評価手順

下記 GLP-1 ~ GLP-4 は、グリーンローン原則(GLP)の各種基準を基に作成された DNV のグリーンローン適格性評価手順です(本文の TL-1~TL-4 に相当します)。

下記のチェックリスト(GLP-1~GLP-4)は、GLP の要求事項を基に、第一生命の Enabler としての資金用途特定型のトランジションローン・フレームワーク適格性評価用に作成された DNV 評価手順です。評価作業における「関連文書確認」は Enabler 内部文書等が含まれ、第一生命から DNV に対して適格性判断の証拠として提供されています。

なお、スケジュール-2 では慣行に従い GLP と表記していますが、ここでは、CTFH 及び CTFBG に基づく資金用途を特定するトランジション・ローンにおいて、トランジション・ローンなど資金用途を特定する資金調達の場合に参照する基準及び要求事項を含むため、適宜トランジションの文意に読み替えて下さい。

GLP-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	トランジション・ローンの種類は資金用途特定型のトランジション・ローンとして定義される以下の種類の何れかに分類される。 <ul style="list-style-type: none"> ・(標準的) トランジション・ローン ・トランジション・レバニューローン ・トランジション・ローンローン ・その他 	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVはアセスメント及び評価作業を通じトランジション・ローンが以下のカテゴリーに分類されることを確認した。 第一生命がEnablerとして実施するトランジション・ローンであり、「(標準的)トランジション・ローン」、「トランジション・プロジェクトローン」に分類される。
1b	トランジション・ローン分類	トランジション・ローンにおいて肝要なのは、その調達資金がトランジション・ローンのために使われることであり、そのことは、証券またはローンに係る法的書類や契約書等に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、トランジション・ローンが、フレームワーク及びスケジュール-1に記載されている通り、第一生命がEnablerとして適合性評価を行う資金調達者の環境目標、トランジション戦略の実現に焦点を当てた幅広いトランジション・ローンへの資金充当を目的としていることを確認した。 具体的には、スケジュール-1に記載される第一生命のトランジション・ローン適合性評価手順を満たし、トランジション・ローンを通じて調達・供給した資金は、その全額が1つまたは複数のトランジション・ローンに充当されるものである。 DNVは、第一生命のフレームワーク及び内部プロセスに従って適切に適合性評価が行われたプロジェクトは、トランジション適格プロジェクトとして、社会全体の脱炭素に適切なタイムラインで貢献することが期待されると結論付ける。

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1c	環境面での便益	調達資金使途先となる全てのトランジション・ローンは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は資金調達者によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - 各種関連文書 - チェックリスト 関係者へのインタビュー	トランジション・ローンは、資金調達者のトランジション戦略に基づく目標に貢献する、1bで示す第一生命による適合性評価により評価された脱炭素化に資するプロジェクトである。環境面での便益はGHG排出量削減であり、資金調達者により定量的又は定性的に評価される。 なお、トランジション・ファイナンス実行前、プロジェクトの運転開始前や秘匿情報・競争上の配慮が必要な場合は、プロジェクトの環境改善効果評価手法(算定方法)及び項目までの開示とし、年次レポートにてプロジェクトの特性に応じた指標及びGHG排出削減量として定量的又は定性的に評価・報告される予定であることを確認した(プロジェクトの特性により、定量的なGHG排出削減量の評価が難しい場合は、プロジェクト概要などを実践可能な範囲にて報告する)。なお、報告は一般開示または第一生命への報告限りの何れかまたは両方となる。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、資金調達者は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類： <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、第一生命が、資金調達者に対して、調達資金を全てスケジュール-1の適合性評価プロセスで適格性があると判断されたプロジェクト候補の1つ又は複数に対し、新規投資、リファイナンスの何れか又は両方に使用する計画について確認する予定であることを確認した。同様に、第一生命がトランジション・ファイナンス実行前に、予め新規投資、リファイナンスの別が明らかな場合は、ローン契約書等で資金調達者より説明を受け、未定の場合は、レポート(年次報告)を通じて、調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の金額を明らかにする予定であることをDNVは確認した。

GLP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	<p>トランジション・ファイナンスを利用する Enabler 及び資金調達者はトランジション・ファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資金調達者が、対象となるプロジェクトが適格なトランジション・ローンであると判断するプロセス ・ トランジション・ファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成 ・ 環境面での持続可能性に係る目標 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - チェックリスト - 各種関連文書 <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNV は、第一生命がトランジション・ファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断するプロセス文書を有しており、その概要をフレームワーク及び関連する文書の中で明記していることを確認した。</p> <p>また、第一生命は ESG 投融資手法のネガティブ・スクリーニングに則り、除外クライテリアを設けており、図- 1 に示す分野については、投融資禁止としていることを確認した。</p>
2b	資金調達者の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	<p>トランジション・ローンプロセスに関して Enabler 及び資金調達者により公表される情報には、規準、認証に加え、トランジション・ファイナンス原資の貸し手や Enabler は、資金調達者のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。</p>	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - チェックリスト - 各種関連文書 <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNV は、第一生命が、トランジション・ローンの選定の際、資金調達者のトランジション戦略が CTF に整合していることに加え、実際に資金が供給されるプロジェクトについて、資金調達者が環境関連法令、条例及び諸規則を遵守しており、ライフサイクル全体もしくは各プロセスにおいて、GHG 排出削減等の環境改善効果が明確になっていること等を考慮していることを確認した。</p> <p>DNV は、第一生命が資金調達者の実施するトランジション・ローンについて、資金調達者のトランジション戦略、目標及び経路と整合していることを確認するプロセスを有していることを確認した。</p>

GLP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	トランジション・ローンによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、トランジション・ローンに係る資金調達者の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、資金調達者によって証明されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、第一生命が、トランジション・ローンによって供給する資金の全額がトランジション・ローンに充当されるまで、資金充当状況について報告することを資金調達者に求めていることを確認した。具体的には、充当済み金額については資金調達者より会計システムの証憑書類の提出を求め、未充当額については充当予定時期および資金の管理状況につき、レポーティングを受ける予定であることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	トランジション・ローンの弁済期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、トランジション・ローンの実行から弁済までの期間、第一生命及び資金調達者が3aに記載する手続き等で調達資金の残高を少なくとも年に1回レビューする計画であることを確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるトランジション・ローンへの投資または支払いが未実施の場合は、資金調達者は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - 各種関連文書 関係者へのインタビュー	DNVは、第一生命が資金調達者の社内システム・帳票等に基づき、未充当金の残高が認識される仕組みであることを確認した。また、第一生命が資金調達者からの説明文書等を通じて未充当資金の残高を現金又は現金同等物で管理されていることを確認する計画（もしくは予定）であることを確認した。また、未充当金の残高は、資金調達者からの資金充当状況のレポーティングを通じて確認する予定であることを確認した。

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、資金調達者はトランジション・ファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 守秘義務や競争上の配慮 - 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果 	<p>確認した文書類：</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - 運用マニュアル <p>関係者へのインタビュー</p>	<p>DNVは、資金調達後から資金充当完了までの期間、第一生命は一般に対し、資金調達者は第一生命及び必要に応じ一般に対して、トランジション・ローンの年次報告を実施し、資金充当状況、資金が充当されたプロジェクト又は環境改善効果に関する情報を開示することを確認した。</p> <p>環境改善効果は、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、下記の何れか又は全てを開示することを確認した。</p> <p>レポーティングは第一生命への報告や一般に報告する場合は、統合報告書又はウェブサイト等で開示される予定である。</p> <p><資金充当状況></p> <ul style="list-style-type: none"> • 充当額 • 未充当額の残高 • 充当額のうちファイナンスとして充当された残高又は割合 <p><環境改善効果> 例</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロジェクト概要、進捗状況等 • 年間 GHG 排出削減量(t-CO₂e/年等)